

## 野鳥用巣箱の営巣調査から

当所構内の野鳥の森へ1988年2月10日に架設した、カラ類用巣箱44個の3年間の利用状況をまとめたので考察を加えて紹介します。

### 調査結果と考察

1. 1年目の調査では、巣立ちした巣箱が23個と、営巣途中で巣材を少し運んだだけでやめたもの3個、ねぐらだけに利用して巣箱内に糞のあったもの4個を加えて、利用された巣箱は30個(68%)ありました。2年目の調査では26個(59%)。3年目は31個(71%)でした。(表-1参照)

2年目の利用が少なかったのは、カラスによって巣孔口を拡大された巣箱が10個あって、これには全く営巣しなかったのが原因だと考えられ、これを修理したところ3年目の利用率が向上しました。

2. 3年間のうち同一巣箱を3回利用して巣立ちしたものの7個、2回が12個、1回利用は16個、利用されなかった巣箱は9個でした。

3. 巣立ちした巣箱を延回数で、巣孔口の方位別にみた割合は、北向きが52%、東が50%、南は38%、西が44%でした。また、未利用は北、東各1、南5、西2で巣箱内に日光が差し込む南、西は嫌われる傾向がみられました。

4. 巣孔の直径は30mmにしましたが、建造物の近くや、畑地に面した林縁の巣箱に3年目の調査で7個のスズメによる営巣、巣立ちがありました。従来から出入孔の直径標準は、カラ類では28~30mmとなっていました。これを下限の28mmにして今後様子を観察したらよいと考えています。

5. 巣箱を立木に固定するにはクレモナロープ(6mm)を使いました。耐久性があり取り扱いが容易で、木にもやさしいことから今後は普及に移したいと思います。また、開閉装置には蝶番よりも消防用古ホース等が優れ、釘は(スクリュー)釘の方が長持ちします。それに、副木もクリ、ヒノキ、カラマツなどの耐朽樹種を使うようにしたいです。

6. 巣箱内には夏期はアリ、カマドウマ、ハチが

入っている場合があります。中を調査するときハチ等には注意を要します。なお、冬期曇天の時には昼間もカラ類が入っています。

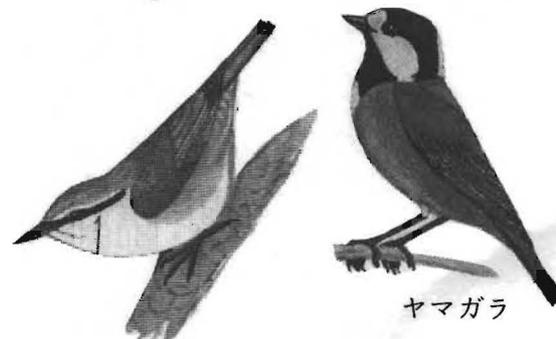
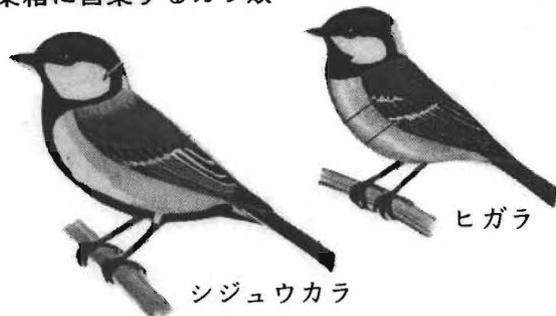
7. 巣箱を利用した種類別でみると、シジュウカラが最も多く、ヒガラ、スズメ、ヤマガラの順でした。

8. ビールのプラスチック製ミニ樽で作った巣箱20個を林内に架設しましたが、1年目の利用は皆無でした。(育林部 唐沢)

表-1 巣箱の利用状況

年目	1	2	3	平均	備考
区分	(1988年)	(1989年)	(1990年)		
営巣して巣立ちしたもの	23個 (52%)	17個 (38%)	21個 (48%)	20.3個 (46%)	
営巣を途中でやめたもの	3 (7)	3 (7)	6 (14)	4 (9)	
ねぐらだけに利用したもの	4 (9)	6 (14)	4 (9)	4.7 (11)	
利用されなかったもの	14 (32)	18 (41)	13 (29)	15 (34)	
計	44 (100)	44 (100)	44 (100)	44 (100)	

### 巣箱に営巣するカラ類



(フィールドガイド日本の野鳥より)